

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301534		
法人名	株式会社 河原木電業		
事業所名	グループホーム 智水寮		
所在地	031-0801 青森県八戸市江陽二丁目18番8号		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個別性を尊重し、一人ひとりの機能維持・向上を目指すと共に、居心地良く、安心できる環境の提供に努めております。また、施設外での活動を取り入れたり、ご本人の意欲に寄り添った活動を提供し、何気ない日々の生活の中から、楽しみや喜びが見出せるよう取り組んでいます。ターミナルケアにおいて、ご本人・ご家族の希望に可能な限り応えられるように、ご本人の状況の変化にも柔軟に対応しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりの気持ちを大切に、日課や食事メニューも事前に決めずに当日の意向を聞き取りながら支援している。職員は理念を念頭に置きながら、利用者が生き生きと生活できるように創意工夫をしている。また、事業所自体も地域や家族と良好な関係が築かれており、地域の中でその人らしく暮らし続けることができるよう行事や外出などが実施されている。終末期や看取りは医療機関と連携しながら、本人や家族の意向に沿い尊厳を大切にされたケアがなされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を唱和し、理念を共有し、現場での指導と実践に努めている。	理念は玄関前や事業所内に掲示し、毎朝の朝礼時に唱和して理念の共有に努め、日々のケアに生かしながら実践している。また、職員間で話し合う機会や勉強会を通じて内容の理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域還元事業を毎月計画・実施したり、近隣保育園との交流、地域の防災訓練や催しへの参加を通じて、繋がりのある暮らしの維持に努めている。	町内会に加入し、地域行事のごみ拾いや雪かき等に積極的に参加している。また、近所の保育園の夏祭りや公民館行事にも出かけて、交流を深めている。駐車場内で行う納涼祭に近隣の方々の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談対応などを通じて、認知症の理解や支援方法を地域へと還元している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、市職員、民生委員、町内会長に会議へ参加頂いている。取り組み状況についての意見やアイデアを活かし、サービス向上に努めている。	町内会長や民生委員・市役所職員に家族も含め、定期的に会議が行われ、行事やケアを含め農作業などにも幅広く意見を取り入れて、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて、助言や取り組みの事例等の情報を得たり、自施設でのサービスの実情等を伝えると共に、協力関係の構築に努めている。	役所の職員とも日頃から相談しやすい関係にあり、サービスの実情や取り組みについて積極的に伝達したり、新たな情報を得られるような体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為、夜間のみ施錠を行なっている。また、身体拘束ゼロ委員会を発足した他、身体拘束・権利擁護に関する勉強会を実施し、拘束のないケアへの理解を深め、実践に努めている。	外部研修や勉強会にて、身体拘束や権利擁護について研修し、拘束のないケアへの理解を深めている。徘徊する利用者にも寄り添い、ともに安全に穏やかに過ごせるように実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・倫理に関する勉強会を実施し、理解と防止に努めている。また、利用者虐待が見過ごされない様、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会を定期的に設けている。必要の際にはその活用に向けて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、理解・納得が頂ける様に取り組んでいる。契約前に施設見学や説明を行ない、不安や疑問について尋ねやすい様に工夫している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡を主体とし、情報交換・情報提供を図り、運営に反映させている。また、利用者の要望に適ったプラン作成に努めている。	家族には電話や面会時に近況を伝えながら意見を求め、会議や日常の場においてその都度検討し、運営に反映している。また、利用者からは日々の様々な場面から察する等してケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議以外にも随時、意見や提案ができる環境にあり、可能な限り反映している。	改善シートを利用して、日々業務で感じていることなどの意見を聞き、検討している。管理者との関係もよく、職員の声を大切にしてい、より良い職場作りに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度を活用している。個々の能力に応じて、やりがいや向上心が持てるよう、労働環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会は毎月開催している。また、職員の力量にあわせ、外部研修会への参加を促し、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や他施設の行事への参加を通じ、同業者と意見やアイデアの情報交換を行ない、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気持ちを伝え合えるよう、コミュニケーションを図っている。信頼関係構築のために、本人が意見や要望、不安に思っていることを相談しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心・信頼感が得られるように事前見学や面談を通し、御家族の意見・要望を聴き、事例をまじえながら、事業所が提供できるサービスを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況をアセスメントし、必要としているサービスを見極め、他のサービス利用も視野にいれた提案・対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの残存能力・興味・生活歴・ニーズを把握し、個性を活かしながら支えあえる関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や随時の報告を通して、家族へ本人の生活状況をこまめに伝えている。また、行事等で関わり合える機会を設け、共に支えあっていく関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会対応のほか、本人の希望にあわせ外出・外泊等の支援を行い、関係継続に努めている。	家族だけでなく、親戚や友人とも馴染みの関係が続くように積極的に支援している。同窓会の参加支援や家族の協力を得ながら自宅への外出や外泊等の支援も行い、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに関わり合える環境や機会を設け、利用者同士が支え合えるよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランは本人の言葉やニーズを活かした立案を行なっている。困難な場合は、多角的に意見や情報を検討し、本人本位に努めている。	個別に担当職員が付き、細やかに聞き取りや表情などから思いや意向を把握できるように努めている。また、家族から以前の暮らしの中での思い等を聞き取りし、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報やサマリー等を基に、情報収集を密に行ない、これまでの暮らしや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時アセスメントを行ない、ADL・IADLを見極め、把握できるように努めている。又、より正確・迅速に情報収集できるように、ツールの改善も行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言葉を活かした介護計画を作成し、本人・関係者との話し合いを通じて、得た意見やアイデアに対し、柔軟に対応する事で、現状に即した計画を作成している。	本人の言葉を大切にし、各職員と管理者でケース会議を行い介護計画を作成している。家族にも相談し、意見や要望を反映させながら柔軟に対応している。数値化したモニタリングも定期的に行い、情報共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの現状と課題、気づきやアイデアを、スタッフ自身が発案できる機会と手段を持っている。これらを活用し、実践と介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況にあわせ、一人ひとりのニーズに応じて柔軟な提案・支援が行なえるよう出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が自身の力を発揮し、暮らしを楽しめるよう、地域資源の活用と把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	家族の希望を尊重して、入居前のかかりつけ医を継続している。適切な医療を受けられるように、職員が送迎して付き添いし、受診の結果は電話連絡等で伝えている。また、2週間毎に往診もあり、体調管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と日々の観察による気づきや変化を報告しあい、適切に受診・看護を受けられるように連携し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報共有や相談、協働に努め、早期退院に向けた取り組みを行なうと共に、本人が安心して治療を受けられるように支援している。また、リロケーションイメージへも配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて、本人・家族・医師と話し合い、事業所でできることを十分に説明し、方針を定めて支援に取り組んでいる。	終末期の対応については入居契約時に説明し、事業所で対応出来る範囲での希望を受け入れている。重度化の状況に応じて都度医師と家族の連携を図りながら具体的な方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連した勉強会を開催している。また、AED普通救命講習会などの外部研修への参加を通じて、実践力を身に付け、事故の発生や急変に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルの把握と訓練を通して、避難方法を身に付けている。また、地域の防災訓練にも参加している。地域へ避難協力をお願いすると共に、事業所でできることを検討し、協力体制の構築に努めている。	災害対策マニュアルを把握し、年3回の防災訓練を通して夜間・日中ともに避難方法等を職員も身に付けている。地域の防災訓練にも積極的に参加しながら避難協力を呼びかけて協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権・人格・プライバシーに配慮した対応を心掛けると共に、勉強会を開き、理解を深め、現場での実践に反映するよう努めている。	人格の尊重のために、特に言葉かけに注意し丁寧な対応を心掛けている。誇りやプライバシーに配慮し、職員同士でも指摘し合える関係性がある。また、勉強会を設けて、現場での実践に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を伝えられる関係性の構築に努めると共に、本人本位の暮らしが営めるように促し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は設けず、本人が希望し、意欲を持って、自分のペースでその日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、本人の希望に合わせ、残存能力を活用しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けは利用者と協力して行なっている。献立は、利用者の好みや、その日食べたい物を反映できるよう工夫している。また、嗜好により、食事量が偏らないように、品目を増やして対応している。	メニューは当日利用者の希望で、好みや食べたいもので提供出来るようにしている。品目も増やして摂取量に偏りがないよう工夫している。準備や後片付けは、利用者の能力に応じて職員と協力しながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事形態を工夫している。また、食事摂取量の把握に努め、不足な状況や体調に合わせて、補食や内容の変更等柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人に合わせた口腔ケアを実施している。必要に応じて、歯科往診を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方に適した排泄方法で、自立に向けた支援を行なうと共に、全ての人がトイレで排泄できるよう、排泄習慣やパターンを把握し、支援を行なっている。	排泄チェック表を使い、習慣やパターンを把握して支援している。夜間時もポータブルトイレ等を使うことなく、トイレでの自立した排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響や原因を理解し、一人ひとりの情報・状況を整理し、検討を重ね、本人に適した対応と予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴日を設けているが、入浴日以外の日でも希望に応じている。また、シャワー浴や清拭等、柔軟に対応している。	入浴日以外でも、希望に応じてシャワー浴や清拭で柔軟に対応出来る体制を整えている。拒否がある利用者にはタイミングを見計らい2人で対応したりと工夫している。また、入浴のない日には夕方に足浴を行い憩いの時間を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状況に合わせて、居室だけでなく、ソファーや小上がりなど、思い思いに安心して休息できる環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の副作用や用法・用量がいつでも確認できる様に、薬の説明に関するファイルを設置している。症状に変化があった場合は、医師へ報告し、適切な服薬がされる様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、能力を活かせる取り組みを提案し、張り合いや喜びを感じて過ごせる様に、日々の活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・散歩・買物等、希望や目的に柔軟に対応している。また、家族との外出・外泊の支援も行なっている。	利用者の希望に沿って、時間や曜日を決めずに気軽に外出できる体制をとっている。ドライブや買い物のほか地区への行事に参加するなど柔軟に対応している。家族の協力を得ながら外出や外泊の支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に応じて、金銭の所持や管理を支援している。本人の希望に添える様、一人ひとりに合わせた対応で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や関係者の協力を得て、本人の希望通り自由に連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある手作り装飾や、空調等の環境整備を行ない、居心地良く過ごせる様に工夫している。混乱を招くようなものや環境に対しては、利用者に配慮し、随時対応を図っている。	ホールは明るく温かで過ごしやすい環境となっている。ソファや畳の小上がりがあり、利用者の気分や体調に合わせて過ごせるようになっている。また、掲示物は職員とともに季節感のある手作りの物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気が合う利用者同士で過ごせるように、各所に休憩スペースを設けたり、活動できる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みのある空間になるよう、使い慣れた家具やモノを持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	本人の使い慣れたタンスやケース等が置かれ、ベッドの位置もそれぞれの使い勝手の良いように配置されている。個々の暮らしを大切に、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で使いやすい環境作りに努め、共有空間への手すり設置のほか、個々の必要性に応じて、居室内の手すりや滑り止めの設置など、一人ひとりが自立して活動できるように工夫している。		